



地域と生きる

おんが病院・おかがき病院だより

おんが病院・おかがき病院は地域の皆さんに信頼され、愛される病院を目指します



一般社団法人遠賀中間医師会

遠賀中間医師会

おんが病院 おかがき病院

統括院長 杉町 圭蔵

令和3年度を迎え、おんが病院には13名、おかがき病院には15名の新入職者を迎えることができ、各部門はさらに充実し、病院には若さとやる気が漲っています。10年前はおんが病院とおかがき病院の職員総数は368名でしたが、今日では、おんが病院321名、おかがき病院260名の総数581名(158%)の大所帯となりました。医療と介護には最新の技術と患者さんに寄り添う優しい心が必須で、多くの人手を必要とします。人件費はかさみますが、住民の方々に満足していただける医療と介護を提供し、安心して地元で生活して頂くには必要な人数だと考えています。

病院では「私たちの思い」として、「患者さんとそのご家族、地域の皆さん、そして職員とその家族から信頼され、愛される病院を目指します。」また「私たちの思いに向かって努力します。」として具体的には「患者さんにご家族への優しいおもいやりと慈しむ心を持ち、安全で質の高い医療を提供します。地域の皆さんを大切にしたい地域完結型の医療・福祉を目指します。人間性豊かな医療人を育成し、働いていることに喜びと誇りを持てる職場を作ります。」という高尚な努力目標を持っており、職員はより高い所を目指して努力しています。

ところで、ヒトの目には見えないウイルスとの熾烈な戦いが始まって、1年余りになりますが、まだ終息する気配はありません。ウイルスは自分が生き延びるために変身(変異)して寄生を続け、コロナ感染者は世界で1億6,000万人、日本では70万人を超えています。おんが病院では、入院患者さんと職員で13名、おかがき病院では39名のコロナ感染者が出ましたが、幸いなことに、全員が全快しー安心したところです。

また、おんが病院のHCU病棟8床は、コロナ専用病棟として緊急対応しており、職員は危険に晒されながら、日夜、献身的に働いており、これまでに51名の患者さんが、延べ858日間入院されており、微力ではありますが地域に貢献しています。また、発熱外来やドライブスルーのPCR検査センターでは4,479人のPCR検査を行い、陽性者は120人(2.6%)でした。

コロナを抑え込むには、ワクチン接種が最も効果的でしょうが、何故か、我が国にはなかなかワクチンが入ってきません。そんな中、医療従事者は優先的にワクチンを接種していただけたことと、私は2回の接種を終え、幸いに、発熱などの副反応はありませんでしたが、恐らく、1年も経つと抗体は漸減するでしょうから、来年もまた、コロナワクチンのお世話になることでしょう。

先日、ある雑誌社からの依頼で、地元、中間市でメンタルクリニックを開業されている森山成彬先生と対談する機会がありました。森山成彬先生は、東大文学部と九大医学部を卒業後、源氏物語に出てくる帚木蓬生(ははきぎほうせい)というペンネームで多くの小説を書かれており、全国的に名の知られた作家で、同時に、精神科の開業医です。これまでに、吉川英治文学新人賞、山本周五郎賞、福岡県文化賞、柴田錬三郎賞、新田次郎賞、小学館児童出版文化賞、日本医療小説賞、歴史時代作家クラブ賞、吉川英治文学賞など数えきれないくらい受賞されています。また、先生の作品は、NHKでテレビドラマ化されたり、「三たびの海峡」は三國連太郎さん主演で、また、「閉鎖病棟」は笑福亭鶴瓶さん主演で映画化されており、遠賀・中間が誇る現役の作家です。私が驚いたのは、朝3時に起きて1時間食事の用意をして、4時から6時まで毎日執筆されて、それから、午前中は外来で診察されているそうです。先日、水泳の池江璃花子選手が、白血病から再起して、東京オリンピックの代表を勝ち取りましたが、テレビを見ていて涙が止まりませんでした。帚木蓬生さんも白血病を克服されたそうです。

私は、傘寿を過ぎましたが、自分の年齢を嘆くのではなく、このお二人を学び、これからは、美しい山や川、誇らしげに咲き乱れる花を愛でながら、世間にご迷惑をお掛けしないように心掛け、微力ではありますが、少しでもヒトのためにお役に立ちたいと思っています。

おなが病院 新任医師紹介

整形外科



はせがわ あきひろ
長谷川 晃大

2021年4月よりおなが病院整形外科に赴任することになりました長谷川 晃大 と申します。

現在に至るまで製鉄記念八幡病院、小倉医療センター、福岡赤十字病院、九州大学病院に勤務して参りました。

製鉄記念八幡病院では一般外傷を中心に経験し、小倉医療センターでは脊椎・脊髄疾患を中心に経験し、福岡赤十字病院では人工膝関節全置換術や人工股関節全置換術などの変性疾患に対する治療を経験し、九州大学病院では全分野を幅広く経験してきました。

当院では外傷を中心に診療を行っておりますが、外来では慢性疾患も広く診察しており、手術だけでなく投薬や注射など、個々人がご納得いただける治療を提供できればと思っております。また骨折後の患者様には、骨密度が低下している方が多く、再度骨折をきたす事が多いため、骨密度検査や骨粗鬆症治療薬の導入なども積極的に行っており、開業医の先生とも連携を密にしております。私の外来は月・金曜日の午前ですが、手術がない日には骨折など緊急性が高い症例に対しまして、他の曜日でも対応しておりますので、是非お問い合わせください。

地域の皆様方のお役に立てるように頑張っていきますので、よろしくお願いいたします。

おかがき病院 新任医師紹介

循環器科



まるやま りゅうげん
丸山 隆元

2021年4月より、循環器科に勤務することになりました丸山 隆元(まるやま りゅうげん)と申します。

循環器科、救急救命科を主に急性期疾患にたずさわってきました。今後は、急性期から慢性期、そして少しでも早く退院することが出来る医療を目指していきたいと思っております。よろしくお願い致します。

医療安全管理の活動について

令和3年4月より、医療安全管理者として専任になりました。今までは病棟師長として現場での業務を中心に行ってきました。今年度からは、医療安全管理者として専任での活動になりますので、日々勉強を行いながら、現場に寄り添った安全活動を行っていきたく思います。実際に事故のない安全な医療を提供していくためには、医療従事者各個人が危機意識を持ち、最大限の注意を払いながら日々の患者の医療・看護・介護を行っていかねばなりません。「人間であれば誰でもエラーをおかす」という事実を前提にすれば、高度化・複雑化する医療環境のなかでは、医療従事者個人の努力に依存した事故防止対策には限界があります。そのため、当院では、組織的な医療事故等の防止について検討し、患者が安心して良質の医療を受けられるような環境を築くために、エラーを誘発しない環境や起こったエラーが事故に発展しないシステムを組織全体として整備していく組織づくりから再度行っていきます。組織的な医療事故等防止対策の手段として、「セーフティマネジメント」の考えを導入しリスクの把握、行動分析、対処、評価のプロセスが継続するようなシステムを構築し日々の活動を行っていきます。発生したエラーについては、積極的に報告できる風通しのいい職場環境を確立し、報告されたエラーについては、常にこれを教材とし、分析し、現場へフィードバックし、再発の防止と、エラーが医療事故につながらない体制を整えていくことを主に業務として実践していきたいと思っております。今年度、当院の目標が医療安全になっています。就任から約1か月ですが、総院長をはじめ各先生や各部署からの多くのご意見や指導やご協力を日々いただき、さらに毎週月曜日のモーニングカンファレンスでは医療安全のプレゼンテーションの時間を頂き情報発信をさせて頂いております。日々精進して医療安全活動に取り組んでいきたいと思っております。

おかがき病院 医療安全管理者
森尾千秋

2021年度の達成目標としての医療安全の推進

当院が2021年度に目指す目標の柱として、「医療の質の向上」を掲げます。その根幹をなすものの一つとして、「医療安全」に最も力を注ぎます。言うまでもなく、これまでも当院では医療安全委員会が設置され、医療安全研修会やリスクマネージャー会議などの定期的開催とともに転倒転落ワーキンググループの活動等の取り組みが行われてきました。具体的な活動としては、院内のヒヤリハット事例の発生には目を光らせ、レポートの提出を重視してきたことから、提出レポート数も徐々に増加してきています。しかし、それらの検証は必ずしも十分ではなく、貴重な事例も一部の関係者のみが知るところで、後々の経験には生かされていない部分も見受けられます。また、医療安全マニュアルも病院独自のものはなく、おんが病院との共有の形でしか存在せず、さらに実用的なものに改訂していかねばならないなどの作業も課題として残っています。

それには、まずは失敗情報をできるだけ表に出して公開する事、失敗例を隠蔽しないこと、また、不幸にして医療ミスというべきものが発生した場合は関係者の結果を責めないで、システムの検証を行い、改善につなげることなどの積み重ねで、医療の改善に努めることを良とする文化の醸成が大事だと考えています。

また、医療安全に関する組織の在り方も少しずつ見直していきたいと思えます。昨年は、医療安全推進準備室（仮称）を設置し、2021年4月からは医療安全管理室としました。同時に、森尾千秋師長が医療安全管理業務の専任として、そこに配置されています。これからは医療安全対策に係る研修を受けるなど、研修要件を満たした医師、看護師、薬剤師などの人材育成も行い、医療安全のための組織づくりを推進していきます。

以上のように、2021年度のおかがき病院の達成目標が医療安全の推進であることを職員一同が心に刻み、協力くださいますよう切にお願いいたします。

一般社団法人遠賀中間医師会 遠賀中間医師会おかがき病院

総院長 兼松 隆之

発行日：令和3年6月吉日

発行：遠賀中間医師会おんが病院・おかがき病院

編集：おんが病院・おかがき病院広報委員会